

令和5年度健康に関するアンケート結果について

1 目的

日吉津村健康づくり連絡会で健康を維持し増進を図ることを願い、今後のよりよい健康づくり事業に繋げるため、新型コロナウイルス感染症5類移行前と現在の生活に関する意識や状況の実態把握を目的とした。

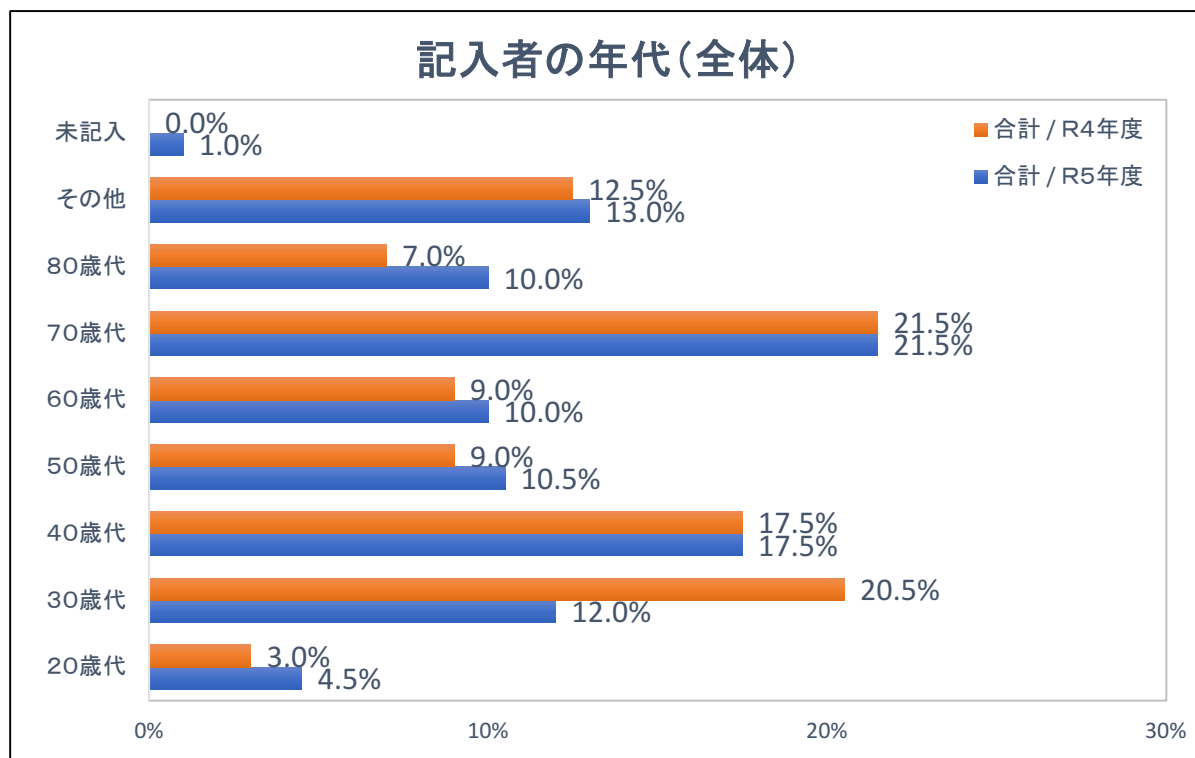
2 調査方法

- (1) 対象 ふれあいフェスタ2023ひえづ来場者
- (2) 時期 令和5年11月5日(日)
- (3) 方法 健康づくり連絡会調査部会委員が配布し、その場で記入してもらい回収。(アンケート用紙は、200枚準備。)

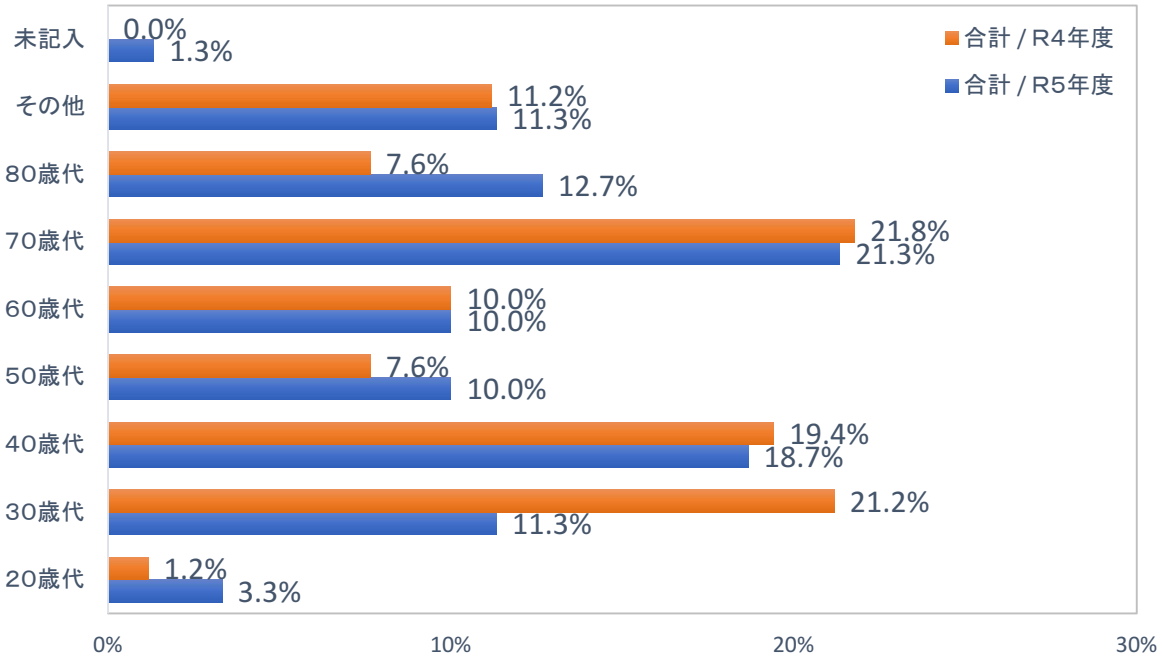
3 結果

回収率 100% (回収数 200枚)
(令和4年度回収率: 100% (回収数 200枚))

(1) 記入者の年代



記入者の年代(村内のみ)

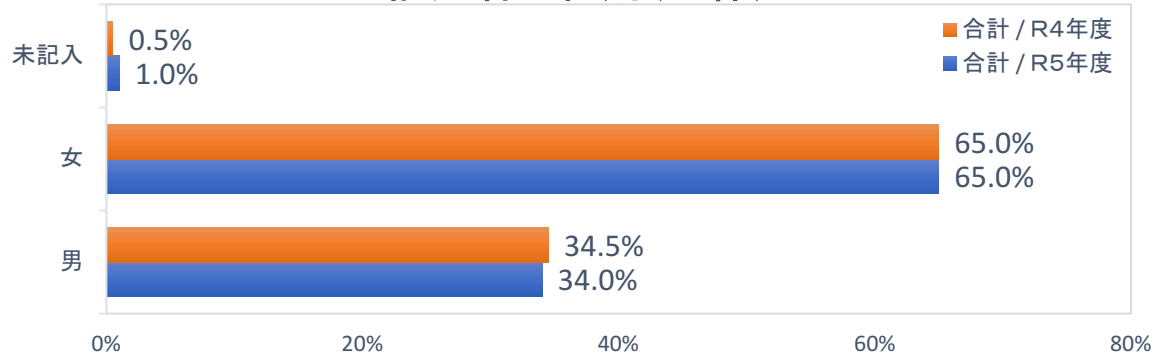


令和4年度より、村内の20歳代の人が約2.8倍増えたが、30歳代の人が約半分に減っていた。

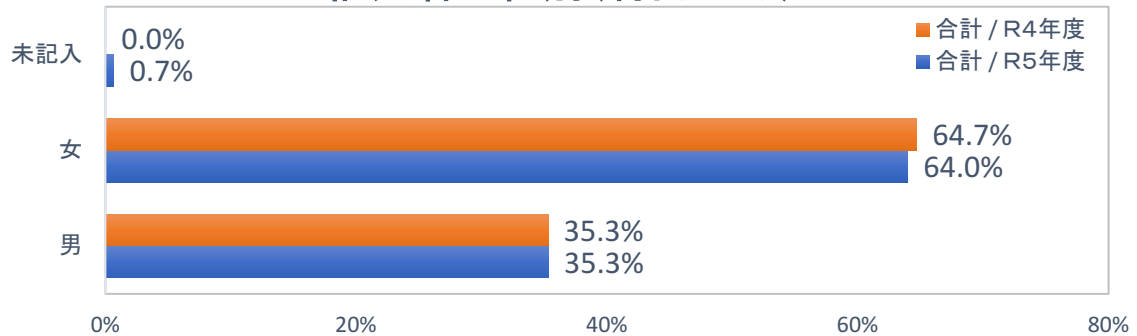
全体・村内とも、70歳代の記入者が最も多かった。

(2) 記入者の性別

記入者の性別(全体)

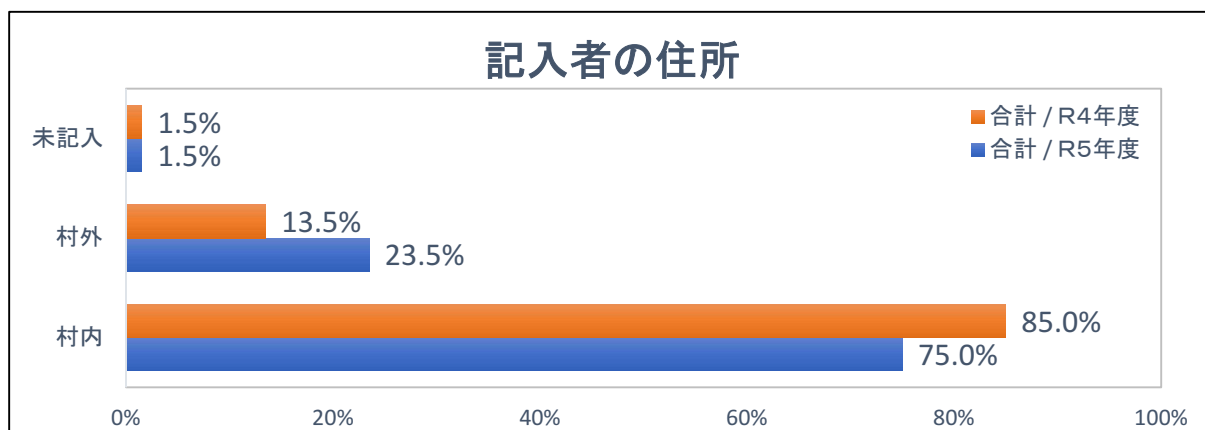


記入者の性別(村内のみ)



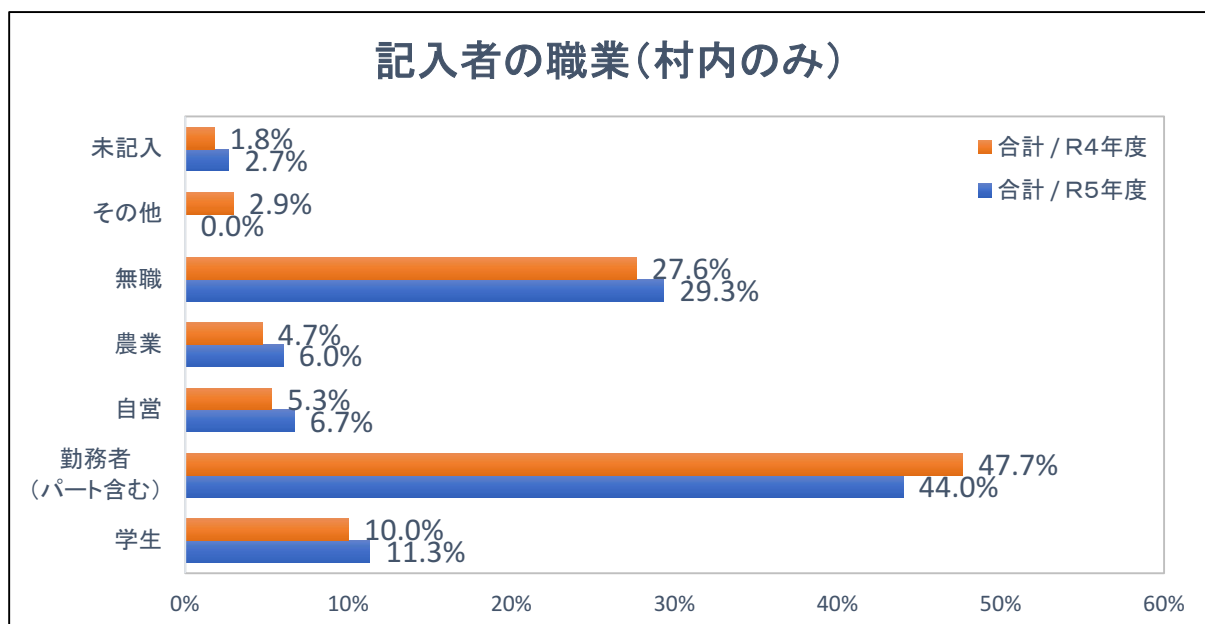
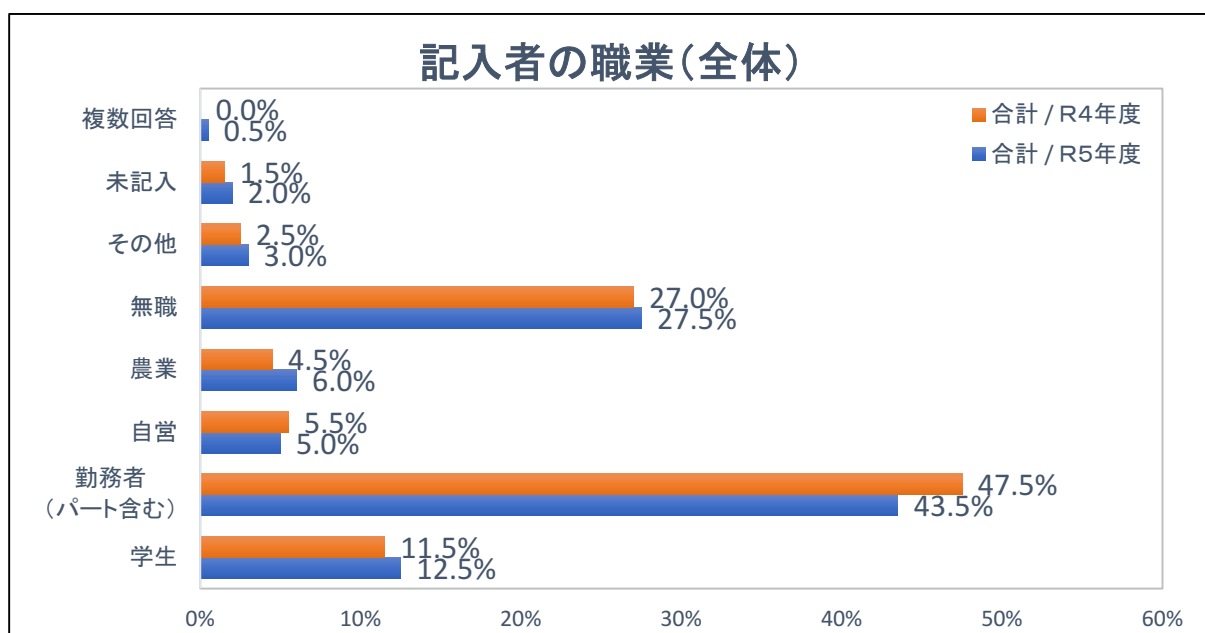
令和4年度と全体・村内ともに男女ほぼ同じで、男性より女性が約1.8倍多かった。

(3) 記入者の住所



村内の方が75.0%と、村外の方より約3.2倍多かった。

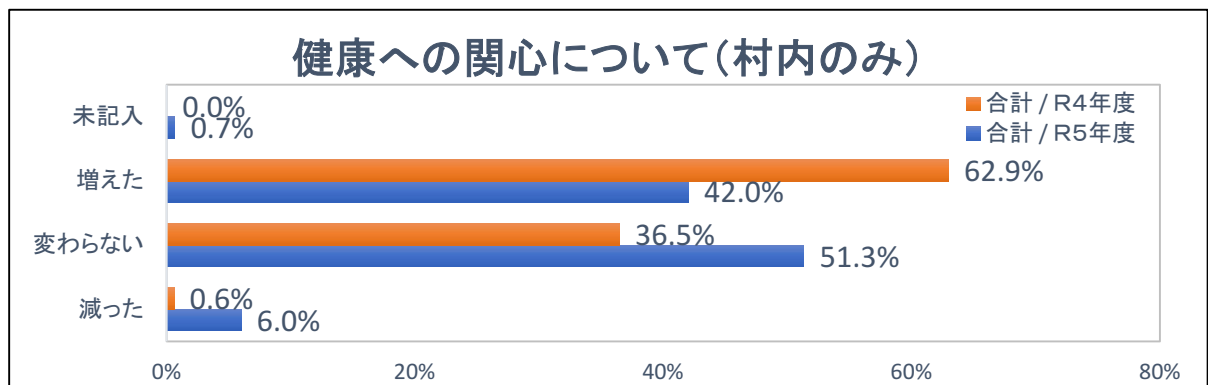
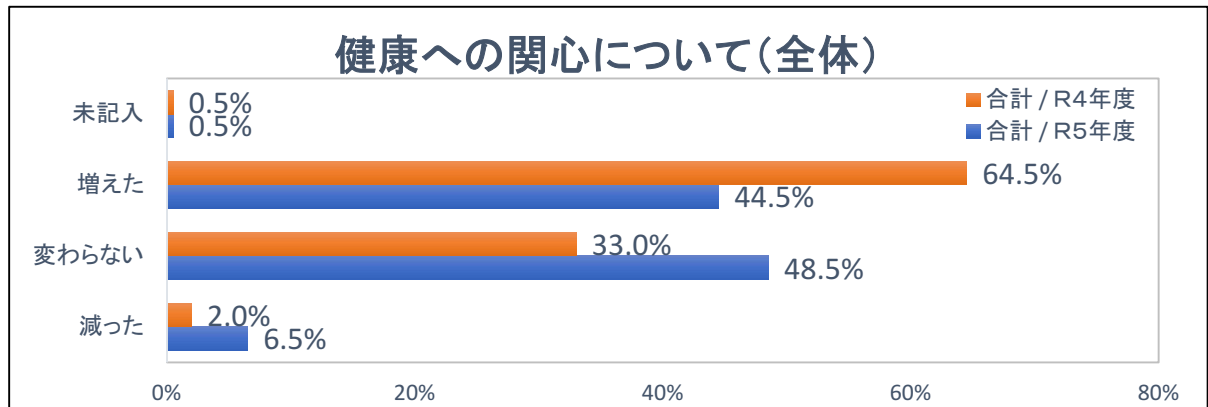
(4) 記入者の職業



全体・村内ともに勤務者が最も多く、次いで無職が多かった。

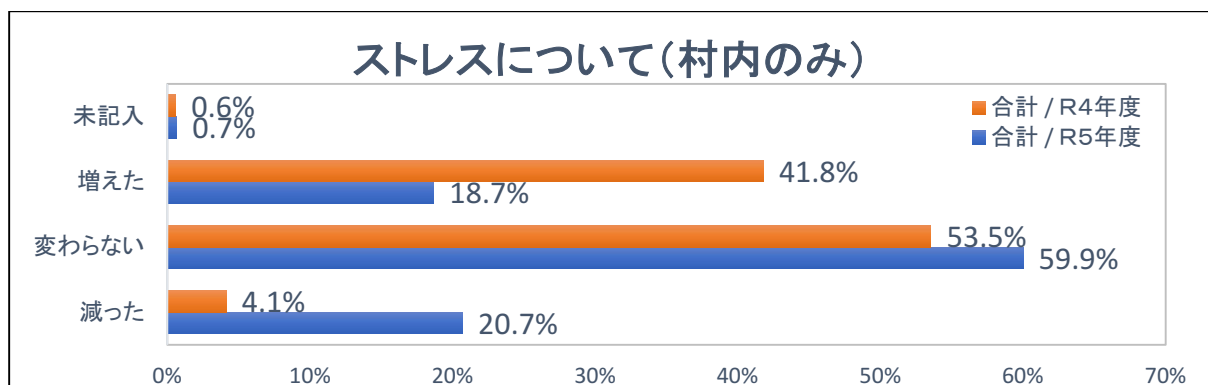
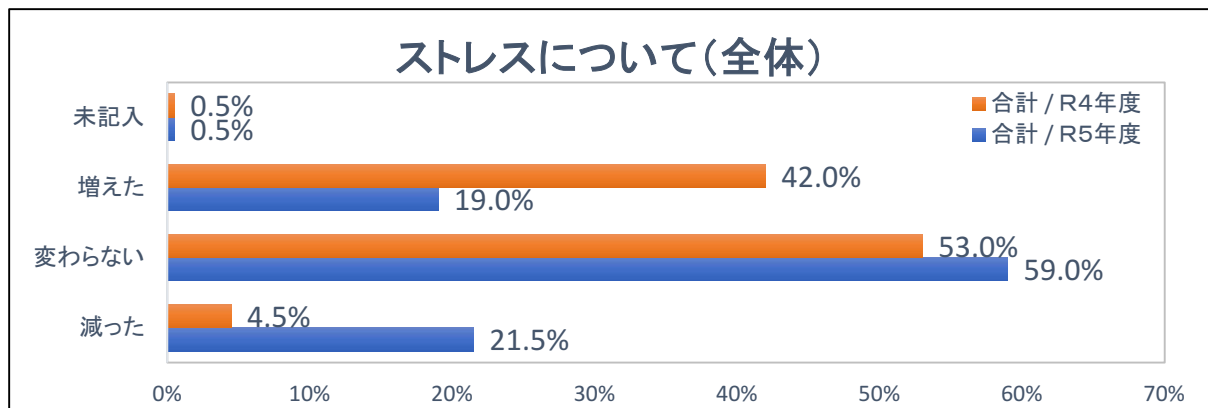
【新型コロナウイルス感染症 5 類移行前と現在の生活を比較してお答えください】

(5) 健康への関心について



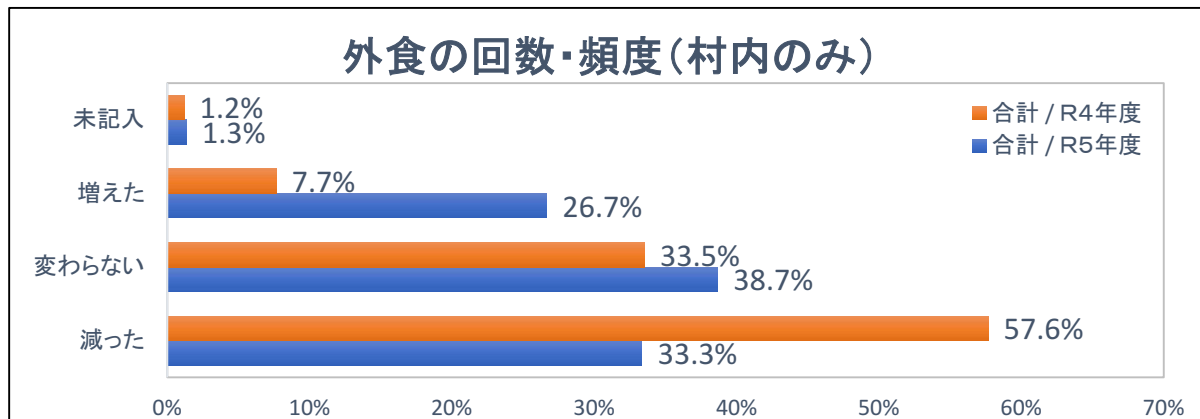
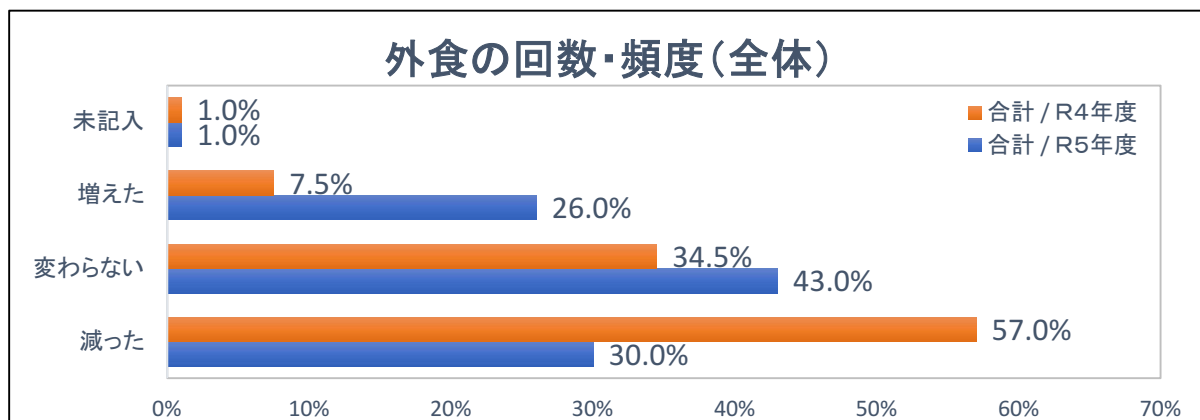
令和4年度より、全体・村内ともに健康への関心が増えた人が減り、変わらない人が増えて最も多かった。

(6) ストレスについて



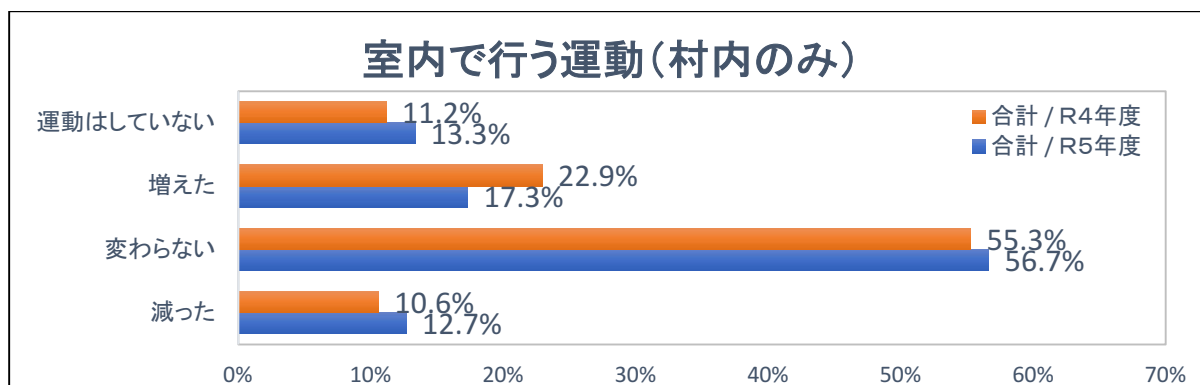
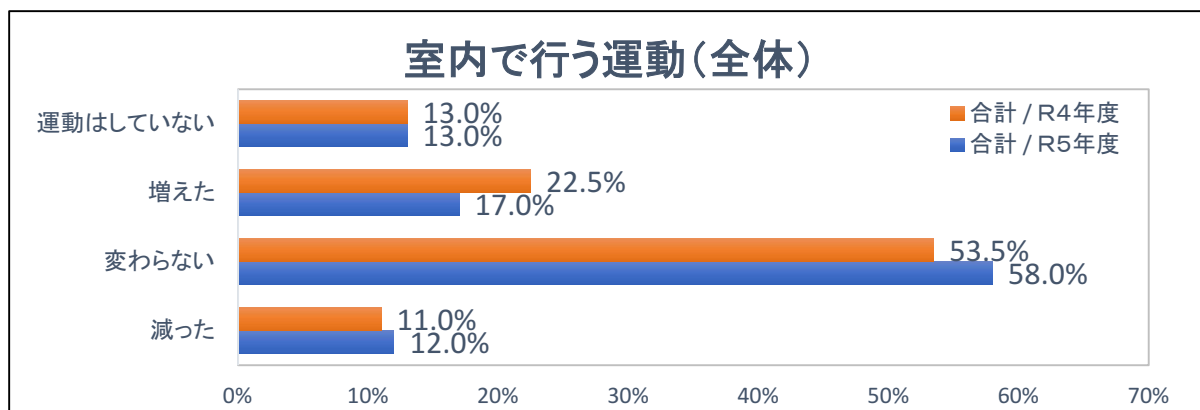
令和4年度より、全体・村内ともに変わらない人が増え最も多かった。

(7) 外食の回数・頻度



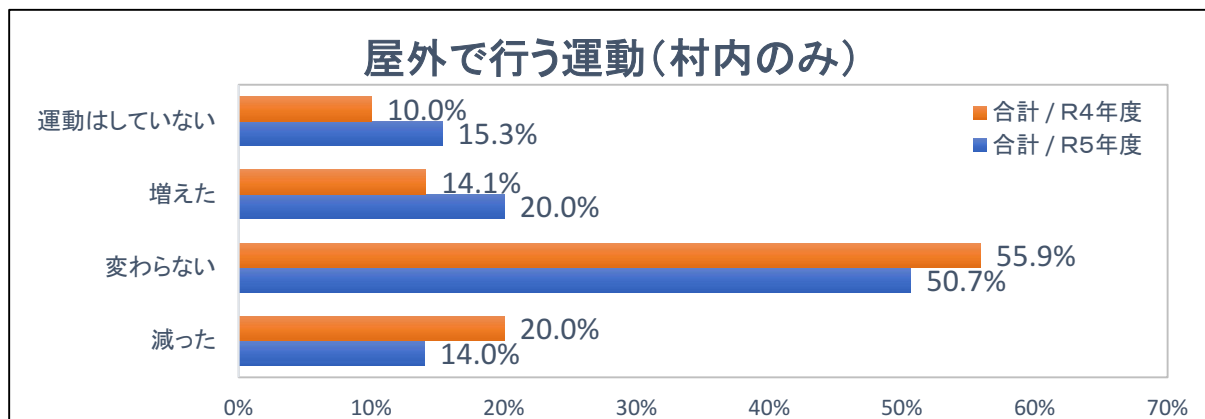
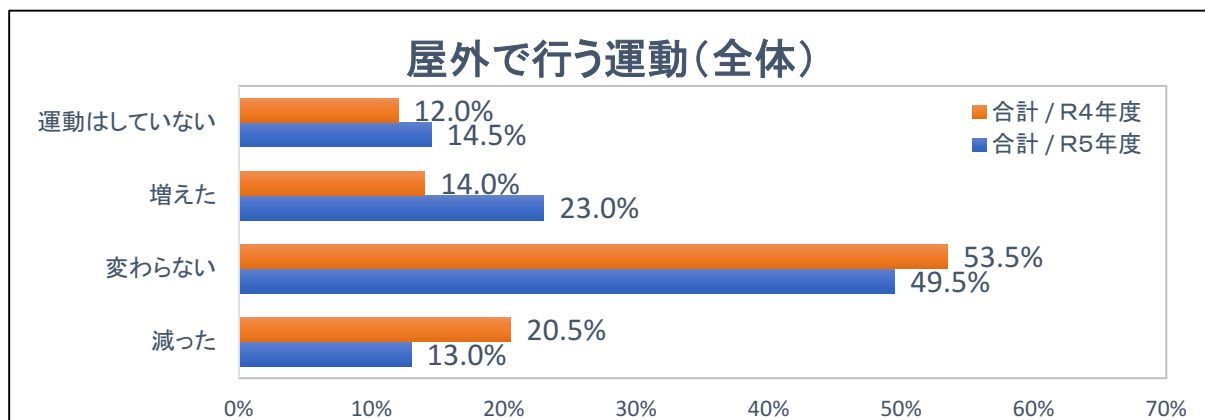
令和4年度より、全体・村内ともに減った人が約半分減少し、変わらない人が増え最も多かった。

(8) 室内で行う運動



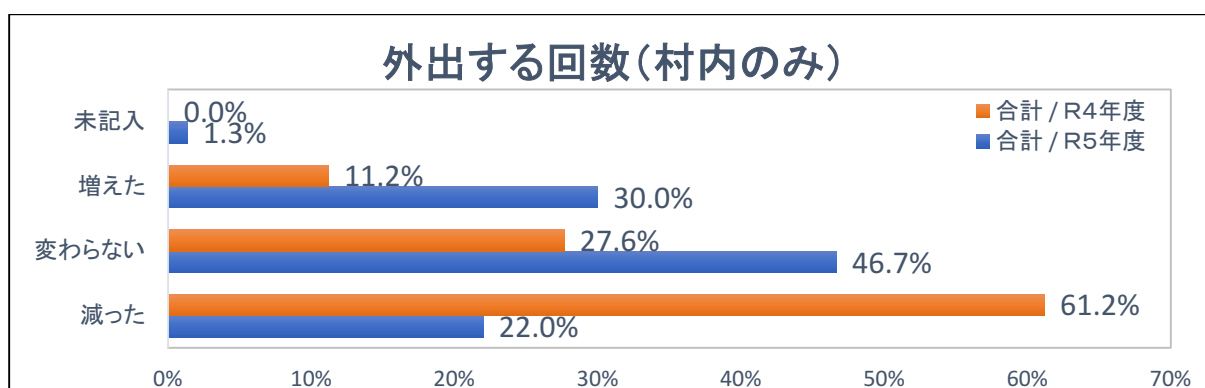
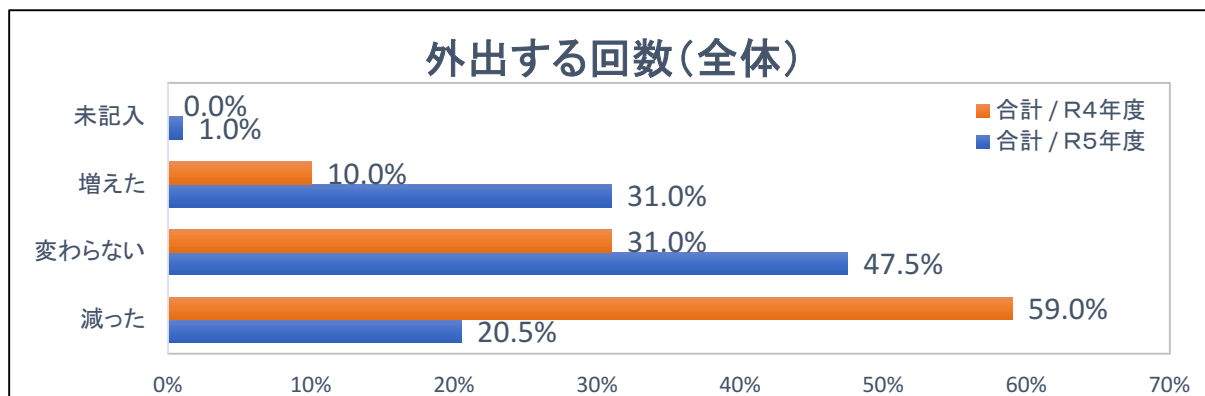
令和4年度より、全体・村内ともに増えた人が減少し、変わらない・減った人が増えていた。

（９）屋外で行う運動



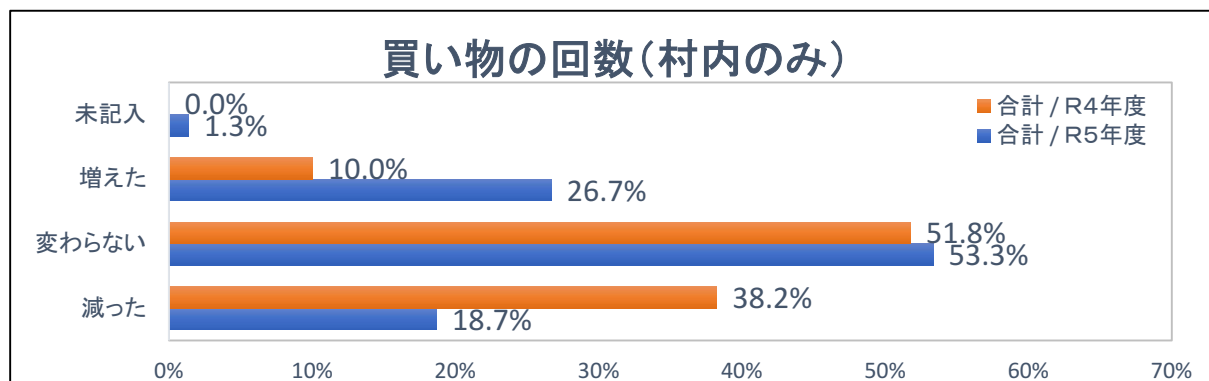
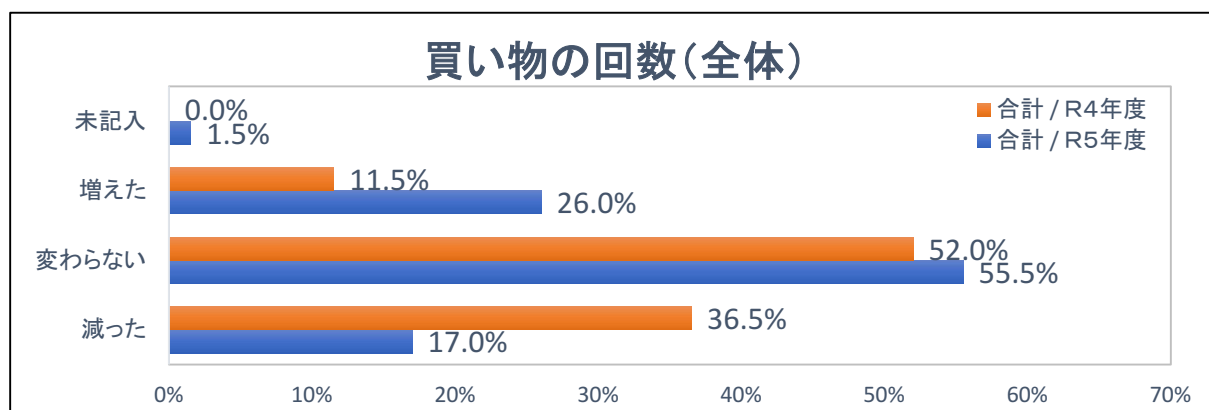
令和４年度より、全体・村内ともに変わらない人が減少しているが最も多く、増えた人は増加していた。

（１０）外出する回数



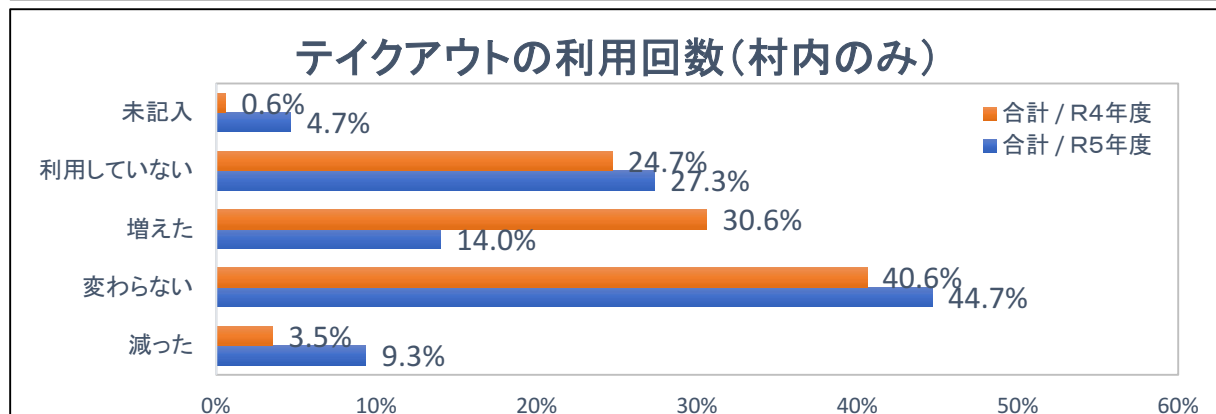
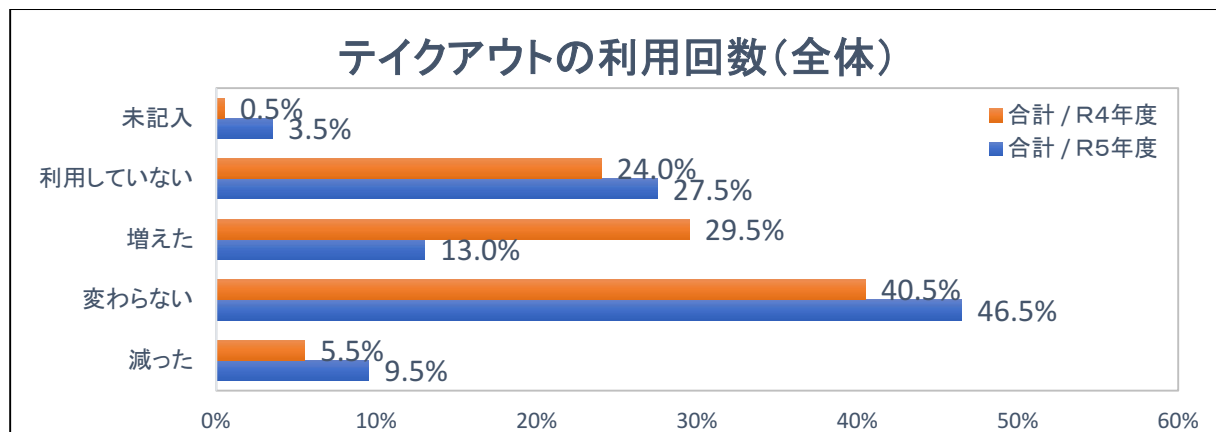
令和４年度より、全体・村内とも減った人が約１／３に減少し、変わらない人が最も多かった。

(11) 買い物の回数



令和4年度より、全体・村内とも減った人が約半分に減少し、増えた人が約2.5倍に増え、変わらないが最も多かった。

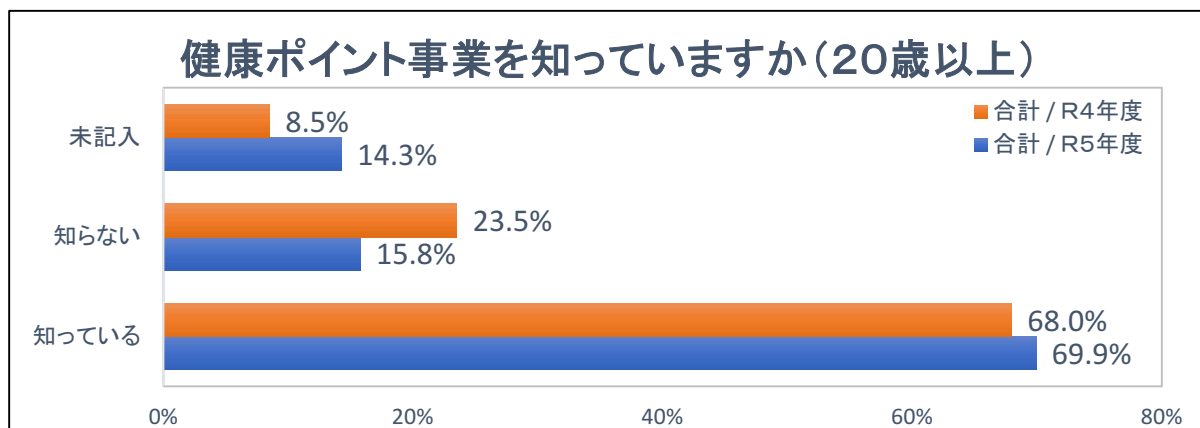
(12) テイクアウトの利用回数



令和4年度より、全体・村内とも変わらないが最も多く、増えた人は約半分に減っていた。

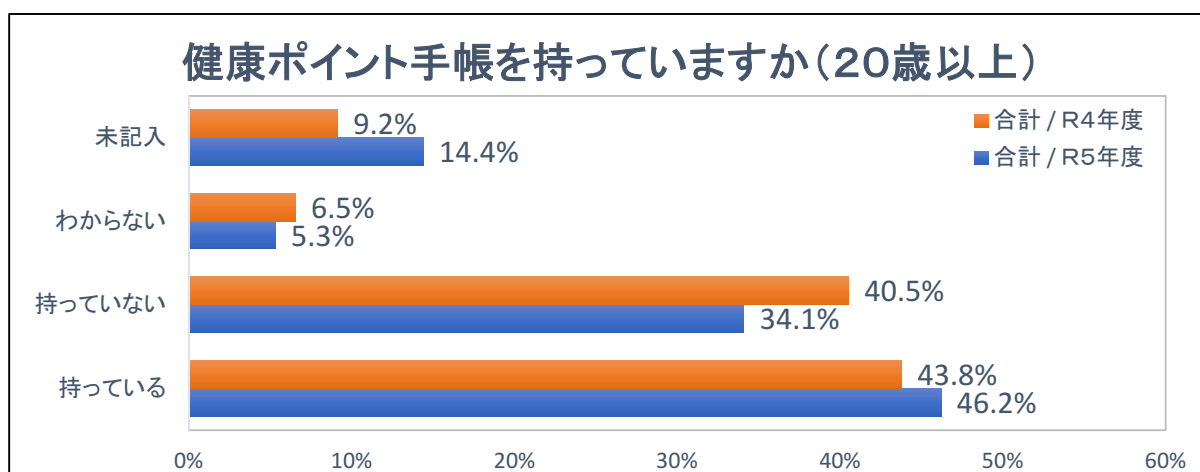
【住所が村内の方のみ】

(13) 日吉津村が実施している健康ポイント事業を知っていますか



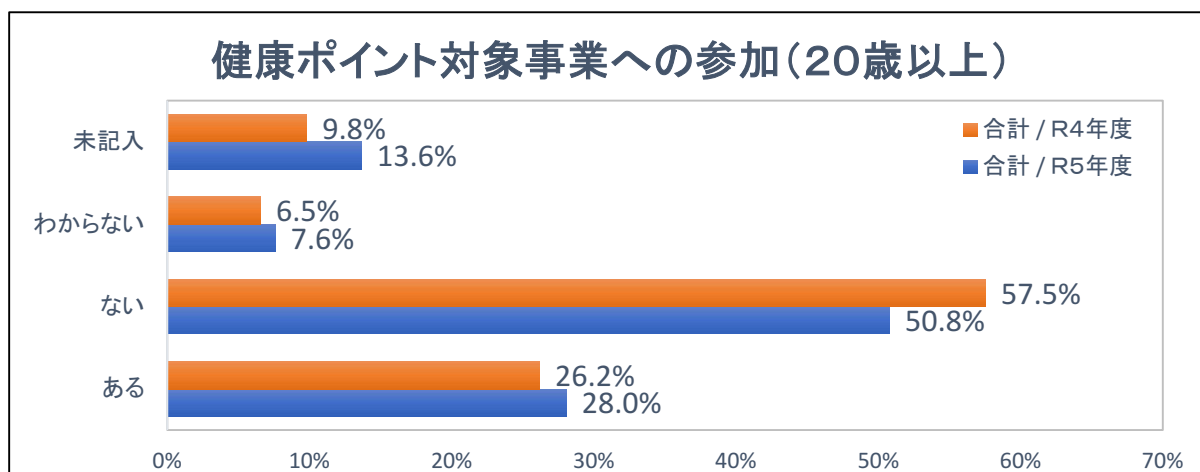
知っているが69.9%と最も多く、知らない人が令和4年度より7.7%減っていた。

(14) 日吉津村が配布している健康ポイント手帳を持っていますか



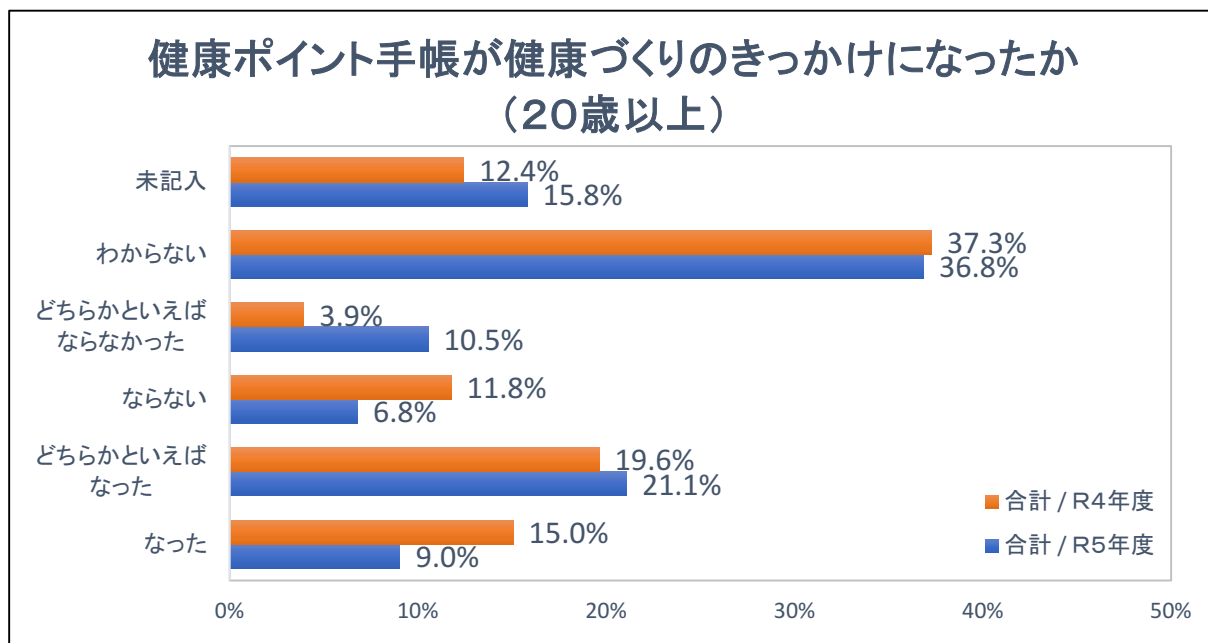
令和4年度より、持っているが2.4%増え最も多かったが、未記入が5.2%増えていた。

(15) 健康ポイント対象事業に参加等されたことがありますか



令和4年度より、健康ポイント対象事業への参加がある方が1.8%増えているが、参加がない方が50.8%と最も多かった。

(16) 健康ポイント手帳が健康づくり（運動や検診受診等）のきっかけになりましたか



わからないが36.8%と最も多く、なった・どちらかといえばなったを合わせると30.1%と令和4年度より4.5%減っていた。

(17) 考察

健康への関心が変わらない村内者は51.3%、減った村内者は6.0%で、健康への意識の高まりが落ち着いたのではないと思われる。

外食の回数・頻度が増えた村内者は26.7%と昨年度の約3.5倍、外出する回数が増えた村内者は30.0%と昨年度の約2.7倍、買い物の回数が増えた村内者は26.7%と昨年度の約2.7倍に増え、外食や外出を意識して制限されていた状況が緩和された様子がうかがえる。

健康ポイント事業の認知度は、事業対象年齢の20歳以上で69.9%と7割近いが、ポイント手帳所持者は46.2%と半数以下、対象事業への参加は28.0%と昨年度より微増したが少なかった。健康ポイント手帳が健康づくりのきっかけになったかについては、なった9.0%、どちらかといえばなった21.1%で、合わせて30.1%と昨年度より4.5%減少したが、アンケート回答者の3人に1人は健康ポイント事業が健康づくりのきっかけとなっていた。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、自粛傾向だった活動が感染症流行前に戻ってきている様子がうかがえた。健康ポイント事業の参加など健康づくりへの取り組みにさらにつながり、健康寿命延伸へと結び付けてもらえるよう、今後も正しい情報発信や情報提供できる健康づくり事業を進めていきたい。